日本公衆衛生看護学会学術奨励賞（教育・実践部門）推薦書

|  |  |
| --- | --- |
| 令和　　　　年　　　月　　　日 |  |
| 日本公衆衛生看護学会理事長　殿 |  |
|  | （推薦者） |
|  | 氏　　名： |  | 印 |
|  | 会員番号： |  |
|  | 所　　属： |  |
|  | 電話番号： |  |
|  | e－mail ： |  |

私は、日本公衆衛生看護学会学術奨励賞の選考に関わる内規に基づき、下記の通り推薦します。

記

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 被推薦者の氏　　　名 | ※推薦者と同一の場合も必ず記入してください。 | 会員番号 |  |
| 被推薦者の所　　　属 |  |
| 共同実践者氏　　　名 | ※被推薦者と共に主体的に活動した構成員がいる場合は記載してください。（名簿添付も可） |
| 被推薦者の連　絡　先 | （住所） |
| （電話） | （FAX） |
| （e-mail） |
| 活動の表題 | 地域拠点を活用した住民相互の支え合い体制づくり活動 |
| 活動の特徴とPRしたい事項 | 子育て世代を支える住民活動に高齢者の社会参加を組み合わせ、異世代間の交流や居場所づくりを成功させた。※50字以内で記載してください。 |
| 推　薦　理　由 | 評価項目 | 採　点（各5点） | 評価の理由（要点を簡潔に記載してください） |
| 公衆衛生看護学上の活動の意義 | 4 | 活動領域や業務範囲を超えた連携体制により、地域住民が主体となって課題解決に取り組めるよう導いた |
| 活動の先見性 | ４ | 世代間交流の取り組みは先行事例があるが、交流にとどまらず、世代間の互助活動へと機能が進化している |
| 活動の成果 | 4 | 行政主導による事業とは異なり、住民による住民のための活動拠点ができたことにより、地域の健康度が高まった |
| 活動の発展性・将来性 | 5 | 育児不安に対する支援から、高齢者の社会参加促進、生活困窮世帯の児童の学習支援へと活動内容が発展している |
| 活動の波及効果 | 3 | 他の地域でも関心を持っており、波及効果が期待できるが、場所の確保が課題でもある |
| 活動内容を示す記録や報告書・発表資料等 | 資料１：共同実践者名簿資料２：保健師ジャーナル●年●月号の掲載記事資料３：住民活動のまとめ、写真、アンケート結果、ポスター見本※資料№と資料の名称を記載して添付してください。※資料枚数はA４サイズで５枚以内としてください。 |

日本公衆衛生看護学会学術奨励賞（教育・実践部門）被推薦者の業績等に関する調書

令和　　年　　月　　日

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 被推薦者の氏　　　名 |  | 被推薦者の所属 |  |
| ※業績の具体的内容（活動の概要、目標と成果、課題と改善策など）を簡潔に1枚に記載してください。１　活動の背景　　転入者やシングルマザーなどの育児不安に対して、子育てサロンや育児サークルの活動　支援を展開してきたが、同年代で同じ境遇の住民による活動は、一定の効果をもたらすものの、子供の成長などに伴い徐々に活動が消滅しがちである。グループで支え合った力を他の対象支援に向けられないか、また異なる年代の住民との子育て支援の可能性について検討することとした。２　活動経過1. 世代間で課題の共有：〇〇地区の民生・児童委員、育児サークル代表者、PTA、小中学校の教員、保育園職員などで座談会を実施。子育てに関するニーズや住民が目指していることを話し合った結果、子育て世代も高齢者も、自由に参加可能な緩やかな居場所を求めていることが明らかになった。
2. 行政内部の横断的な議論：母子保健部門、介護予防部門が合同で、この地区の住民の健康課題と活動状況を再整理し、健康課題別に対象を分断せずに、住民同士が支え合う場づくりを支援する方向性を確認
3. 目標の設定：座談会を繰り返し、この地域で目指すこと、実現可能な取組のアイディアを住民自身で考えてもらった結果・・・
4. 場所の確保：児童委員のひとりが空き家を提供してくれることになり・・・
5. ●年●月、空き家を拠点とした住民主体の「お互いさま茶室」を週1回開設
6. 行政は各部門協働で普及啓発を行い、相談・助言などの側面的な支援を実施

３　活動の成果（参加者の推移やアンケート結果は別添資料のとおり）1. 様々な年齢の子供をもつ母親がおしゃべりし、情報交換するようになった
2. 子どもの遊び相手や母親へのアドバイスとして高齢者が役割をもつようになった
3. 上記により隣近所で日ごろから挨拶が活発になり、住民同士のつながりが深まった
4. 茶室に参加する住民のうち、母親は育児に対する緊張感が薄れたと実感し、高齢者は定期的な外出と生きがいや喜びを感じる機会になっている

４　活動の発展性と波及効果および課題　・介護予防事業への参加が少なかった男性高齢者が、塾に通えない児童の学習指導を行うようになり、茶室の開設時間を拡大して放課後児童の居場所にも発展している・孤食防止のための地域食堂のアイディアも出されており、児童・生徒が単身高齢者宅にお迎えに行くなどして、今秋から開始予定　※他の地区でも同様の取組に関心をもっているが、場所の確保が課題となっており、民間事業者との協働や活動費の助成について検討中 |

※この調書は、被推薦者・推薦者のいずれが作成しても構いません。

※募集締め切り後7日経過しても受理通知が届かない場合は、事務局に確認してください。